

【 母性看護学 】

授業科目	母性看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 母性看護の概念が理解できる 2. 母性に関する法律について理解できる 3. 人間の性と生殖について理解できる 4. ライフサイクル各期における女性の健康について理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回 2回 3回 4回	1. 母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ(人間の性) 4) リプロダクティブヘルス/ライツ 5) ヘルスプロモーション	*アクティブラーニング 講義	
5回 6回	2. 母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 性周期における変化 3) 母性の発達・成熟・継承	講義	
7回	3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母性看護の歴史的変遷と現状 (1) 母性看護の歴史 (2) 母子保健統計 (3) 母性看護にかかわる法律 2) 母性看護の提供システム (1) 周産期医療 (2) 子育て支援	講義	
8回	4. 女性のライフステージ各期の理解	1) 思春期・成熟期・更年期・老年期の身体的・心理的・社会的特徴 2) 起こりやすい健康問題	講義	
9回	5. リプロダクティブヘルス・ケア	1) 家族計画 2) 性感染症 3) HIV 4) 人工妊娠中絶 5) 喫煙 6) 性暴力 7) DV 8) 児童虐待 9) 母子保健の国際化	講義	
10回 11回 12回	6. ライフステージ各期における看護	女性のライフステージ各期において起こりうる問題に対する看護、リプロダクティブヘルス・ケアについて考える	グループワーク	
13回 14回	7. 母性看護における倫理	1) 母性看護における倫理的問題 (1) 生命倫理・看護倫理 (2) 倫理的意思決定	講義 グループワーク	
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	課題および筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①(医学書院)			
参考文献				

【母性看護学概論】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、母性看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	妊産褥婦の健康の保持・増進に向けた看護 (妊娠)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 周産期にある対象の健康の保持・増進に向けた看護について理解する 2. 周産期における心身の特徴について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 妊娠期の身体・心理・社会的特徴	1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育とその生理 3) 母体の生理的变化 4) 妊婦の心理 5) 妊娠による不快症状(マイナートラブル) 6) 妊婦と家族および社会		講義
2回	2. 妊婦と胎児のアセスメント	1) 妊娠とその診断 2) 妊娠週数による変化 3) 妊娠期に行う検査とその目的 (1) 妊婦健康診査時の援助 4) 胎児の発育と健康状態の評価		講義
3回 4回		1) 基礎的情報のアセスメント 2) 日常生活に関するアセスメント (1) 妊婦の日常生活とセルフケア (2) 食事・栄養 (3) 排泄 (4) 活動・休息 (5) 清潔 (6) 嗜好品 (7) 性生活		講義
5回	3. 妊婦と家族の看護	1) 妊婦が受ける母子保健サービス (1) 妊娠の届け出と母子健康手帳 2) 妊婦の健康相談・教育の実際 (1) 妊娠期の健康管理に関する教育 3) 親になるための準備教育 (1) 出産準備教育、育児準備教育		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

授業科目	妊産褥婦の健康の保持・増進に向けた看護 (分娩)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 周産期にある対象の健康の保持・増進に向けた看護について理解する 2. 周産期における心身の特徴について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 分娩の要素	1) 分娩とは 2) 分娩の3要素 3) 胎児と子宮及び骨盤との関係 4) 分娩の機序		講義
2回	2. 分娩の経過	1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 2) 産痛 3) 分娩が胎児に及ぼす影響 4) 産婦の心理・社会的変化		講義
3回	3. 産婦・胎児・家族のアセスメント	1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント		講義
4回	4. 産婦と家族の看護	1) 看護目標と産婦のニーズ 2) 安全・安楽な分娩への看護 3) 出産体験が肯定的になるための看護 4) 基本的ニーズに関する看護 5) 家族への看護		講義
5回	5. 分娩期の看護の実際	1) 分娩第1期～第4期の看護 (1) 産痛緩和 (2) 呼吸法 (3) マッサージ 2) 無痛分娩と看護		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

授業科目	妊産褥婦の健康の保持・増進に向けた看護 (産褥・新生児)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	9
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 周産期にある対象の健康の保持・増進に向けた看護について理解する 2. 周産期における心身の特徴について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 産褥経過	1) 産褥期の身体的変化 (1) 退行性変化 (2) 進行性変化 2) 産褥期の心理・社会的変化 (1) マタニティブルー (2) 愛着形成		講義
	2. 褥婦のアセスメント	1) 産褥経過の診断 2) 褥婦の健康状態のアセスメント		
2回	3. 褥婦と家族の看護	1) 身体機能の回復および進行性変化への看護 (1) セルフケア不足に対する看護 (2) 退行性変化・進行性変化への看護 (3) セルフケア能力を高める看護 2) 児との関係確立への看護 3) 育児にかかわる看護 (1) 授乳 (2) 児の清潔 (3) 児の健康管理 4) 家族関係再構築への看護 (1) きょうだいへの対応 (2) 夫(パートナー)への対応		講義
3回 4回	4. 退院後の看護	1) 産後の生活調整 2) 育児不安への支援 3) 産後の健康診査と子育て支援 4) 職場復帰		講義
	5. 新生児のアセスメント	1) 新生児の生理・機能 (1) 体格・姿勢 (2) 子宮外適応現象 (3) 呼吸・循環・体温・消化・吸収・腎機能 代謝(生理的黄疸)・免疫・皮膚・反射・感覚機能		
	5. 新生児の看護	1) 出生直後の看護 2) 出生後から退院時までの看護 3) 生後1か月健診に向けた退院時の看護		
5回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

【妊産褥婦の健康の保持・増進に向けた看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、母性看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	ハイリスクな状況にある妊産褥婦の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	医師		講義時間	10
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. ハイリスクな状況にある人の看護を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 出生前 2. ハイリスク妊娠と看護	1) 不妊治療 2) 出生前診断 1) ハイリスク妊婦の看護 (1) 高年妊婦 (2) 若年妊婦 (3) 生殖補助医療後の妊婦 (4) 合併症を有する妊婦 2) 妊娠期の感染症を有する妊婦の看護 3) 妊娠疾患を有する妊婦の看護 (1) 妊娠悪阻の妊婦 (2) 妊娠高血圧症候群の妊婦 4) 多胎妊娠の妊婦の看護 5) 妊娠持続期間の異常を有する妊婦の看護 (1) 流産 (2) 早産・切迫早産 6) 異所性妊娠の妊婦の看護		講義
2回 3回	2. ハイリスク分娩と看護	1) 破水を生じた産婦の看護 2) 分娩遷延のリスクのある産婦の看護 3) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 4) 帝王切開術を受ける産婦の看護 5) 骨盤位分娩時の看護 6) 急速遂娩を受ける産婦の看護 7) 分娩時異常出血のある産婦の看護		講義
4回	3. ハイリスク産褥と看護	1) 子宮復古不全の褥婦の看護 2) 産褥期の発熱がある褥婦の看護 3) 産褥血栓症を有する褥婦の看護 4) 産褥期精神障害を有する褥婦の看護 5) 母子分離時の看護 6) 帝王切開術後の看護 7) 育児に困難感をかかえる褥婦への看護 8) メンタルヘルスの問題を抱える褥婦の看護 8) 児を亡くした褥婦・家族の看護		講義
5回	4. ハイリスク新生児を持った褥婦の看護	1) 新生児仮死を生じた新生児の看護 2) 分娩外傷を生じた新生児の看護 3) 低出生体重児である新生児の看護 4) 高ビリルビン血症を生じた新生児の看護 5) 新生児・乳児ビタミンK 欠乏症を生じた児の看護 6) 低血糖を生じた新生児の看護		講義
6回	終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

授業科目	ハイリスクな状況にある妊産褥婦の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	4
			テスト時間	試験別
学習目標	1. ハイリスクな状況にある人の看護を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. ハイリスク分娩	1)産道の異常 2)娩出力の異常 3)胎児の異常による分娩障害 4)胎児の付属物の異常 5)胎児機能不全 6)分娩時の損傷 7)分娩3期および分娩直後の異常 8)分娩時異常出血		
2回	2. 産科処置と産科手術	1)分娩誘発 2)会陰切開術 2)帝王切開術 など		
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

【ハイリスクな状況にある妊産褥婦の看護】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	テキストでハイリスクにある状況になる妊産褥婦の理解を深める
--------	------	---------	-------------------------------

授業科目	母性看護学演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 母性の対象となる人々の健康の保持・増進に向けた支援について理解する 2. 母性看護に必要な援助技術が習得できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 母性看護における看護過程	1) ウェルネス看護診断の考え方 2) 母性看護における対象理解の視点	* アクティブラーニング 講義	
2回	2. 妊娠期における看護過程	1) 妊娠期のアセスメントの視点 2) 看護診断と看護目標、看護計画	講義 個人ワーク	
3回	3. 妊娠期の援助	1) レオポルド触診法 2) 児心音聴取 3) 子宮底・腹囲測定	演習(実習室)	
4回	4. 分娩期における看護過程	1) 分娩各期に応じたアセスメント 2) 看護診断と看護目標、看護計画	講義 個人ワーク	
5回	5. 褥婦における看護過程	1) 産褥日数に応じたアセスメント 2) 看護診断と看護目標、看護計画	講義 個人ワーク	
6回	6. 帝王切開術による分娩の看護	1) 術前・中・後の看護	講義 個人ワーク	
7回	7. 退行性変化の観察	1) 産褥日数による子宮復古の変化と観察の実際 2) 子宮復古を促す援助	演習(実習室)	
	8. 授乳手技獲得への看護	1) 乳房の観察、抱き方、含ませ方の実際 2) 乳汁分泌促進への援助		
8回	9. 新生児期における看護過程	1) 新生児期のアセスメントの視点 2) 看護診断と看護目標、看護計画	講義 個人ワーク	
9回				
10回	10. 新生児の援助技術	1) 新生児のバイタルサイン測定 2) 沐浴、臍処置、更衣、おむつ交換 3) 新生児の抱き方、寝かせ方、瓶哺乳、排気	演習(実習室)	
11回				
12回	11. 女性生殖器疾患をもつ患者の看護	1) 子宮筋腫 2) 子宮がん 3) 卵巣がん 4) 骨盤臓器脱	講義 個人ワーク	
13回	12. 母性看護(産褥期)における指導技術	1) 産褥期に必要な保健指導 (1) 指導内容の選定 (2) 指導計画立案 (3) 発表	グループワーク	
14回			発表(実習室)	
15回				
評価方法	課題評価(看護過程・演習課題)			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献	ウェルネスからみた母性看護過程 第3版(医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版(医歯薬出版)			

【母性看護学演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む
--------	------	---------	-----------

授業科目	母性看護学実習	対象学年・時期	3年次・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	周産期及びライフサイクル各期にある女性とその家族への健康の保持・増進に向けた看護を実践する基礎について学ぶ。		
	実習目標及び内容		
	<p>1. 周産期にある母子の特徴を理解し、必要な援助が実施できる</p> <p>1) 妊娠期の正常な経過とその特徴、妊婦への援助を理解できる</p> <p>(1) 妊娠期の正常な経過と妊婦の特徴を述べることができる</p> <p>(2) 妊娠各期に必要な援助を述べることができる</p> <p>2) 分娩期の正常な経過とその特徴、産婦への援助を理解できる</p> <p>(1) 分娩各期の正常な経過と産婦の特徴を述べることができる</p> <p>(2) 分娩各期に必要な援助を述べることができる</p> <p>3) 産褥期の正常な経過とその特徴を理解し、褥婦への援助が実施できる</p> <p>(1) 産褥期の正常な経過と褥婦の特徴を述べることができる</p> <p>(2) 褥婦の身体的変化をとらえ、状態に応じた援助計画を立案することができる</p> <p>(3) 退行性変化を促進するための援助ができる</p> <p>(4) 進行性変化を促進するための援助ができる</p> <p>(5) 育児技術習得を促進するための援助ができる</p> <p>(6) 母子の愛着形成を促進するための援助ができる</p> <p>4) 新生児の特徴を理解し、新生児が健康を維持・促進するための援助が実施できる</p> <p>(1) 新生児期の正常な経過と新生児の特徴を述べることができる</p> <p>(2) 新生児の胎外生活適応過程における身体的変化をとらえ、状態に応じた援助計画を立案することができる</p> <p>(3) 新生児の成長・発達を促進するための援助ができる</p> <p>(4) 感染予防・事故防止するための援助ができる</p> <p>5) 周産期に活用できる包括的支援を理解できる</p> <p>(1) 母子の健康を保持・増進するための支援を述べることができる</p> <p>2. 女性生殖器に健康障害を持つ対象の治療及び療養生活を理解し、必要な看護が考えられる</p> <p>1) 疾患及び治療・検査が対象の日常生活に及ぼす影響を理解することができる</p> <p>(1) 女性生殖器に健康問題を持つ対象の疾患及び治療・検査が日常生活に及ぼす影響を述べることができる</p> <p>2) 疾患及び治療・検査が精神面・社会面に及ぼす影響を理解することができる</p> <p>(1) 女性生殖器に健康問題を持つ対象の疾患及び治療・検査が、対象の精神面・社会面に及ぼす影響を述べることができる</p> <p>3) その人らしい暮らしに向けた支援を理解することができる</p> <p>(1) 各ライフサイクルにおける女性の健康問題と、健康を守るために必要な支援について自己の考えを述べることができる</p>		
評価方法	評価表による評価		